

## 研究課題 整形外科領域におけるセレコキシブによる胃粘膜障害の検討

### 研究期間

データ収集期間 2014年4月1日 ～ 2017年9月30日

データ分析期間 2018年5月1日 ～ 2018年9月29日

### 研究機関

地方独立行政法人 市立吹田市民病院 消化器内科

### 目的

セレコキシブは COX-2 を選択的に阻害するため、消化管に対する副作用発現の低減が期待されており、消化性潰瘍診療ガイドライン(2015)では、NSAIDs 潰瘍発生は COX-2 選択的阻害薬により減少するので使用することを推奨している。整形外科領域において疼痛コントロール目的の鎮痛薬は欠かせない存在であるが、胃粘膜障害をどのように予防するかは一般臨床の場で重要である。今回我々は、当院での整形外科領域におけるセレコキシブによる胃粘膜障害の現状に関して調査と検討を行い、現状を把握することを本研究の目的とします。

### 方法

当院で 2014 年 1 月～2017 年9月の期間、整形外科にてセレコキシブを投薬された症例のうち投薬前後に上部消化管内視鏡検査歴のある 144 症例を調査対象として、PPI 処方のある 64 症例(PPI 群)、H2-blocker 処方のある 13 症例(H2-blocker 群)、レバミピド処方のある 32 症例(レバミピド群)、胃薬処方の無い 35 症例(胃薬無し群)の4群間で胃粘膜病変に関して調査し、統計学的手法にて分析します。

### 意義

セレコキシブ服用症例において胃粘膜傷害の有無や内容を明らかにすることにより、その因子や傾向を把握することは疫学的に有用な情報になると考えられます。

### 個人情報の保護

本研究では患者様のカルテなどから身体所見に関するデータおよび治療状況に関するデータ収集を行うため、研究対象者のプライバシー保護のため研究の意義や目的、方法、匿名化の確保を行い、研究結果をインターネットのホームページ上に公表されます。研究のために知りえた個人情報は院外に持ち出さず、記録物と合わせて施錠可能な場所に厳重に保管・保存します。データは個人情報が特定できないようにします。また、本研究でのみ使用し研究終了後 5 年間保存しその後個人情報に留意し破棄します。研究結果は学会に発表することもあります。その際も個人情報が特定できないように対処します。当院臨床研究審査委員会の承認を得ます。

### 問い合わせ等の連絡先

地方独立行政法人 市立吹田市民病院 消化器内科 長生 幸司

住所：564-0082 吹田市片山町 2-13-20 電話番号：06-6387-3311